



亀山市白川小学校の全校児童四十八人が十二日、同市小川町の学習田で、もち米の稲刈りを体験した。田んぼを所有する浅野正さん（みづら）地域住民から手ほどきを受け、黄金色に実った稲を鎌で次々と刈り取っていった。

毎年の恒例行事だが、台風や新型コロナウイルスの感染拡大などで中止が続き、五年ぶりの開催。四月末に全校児童で苗を植え、

黄金色の稲鎌で次々と

白川小生が稲刈り体験

収穫期を迎えた。六年の山本琉輝君（こは）は「初めての体験。サクサク切れていくのが楽しかった」と笑顔を見せた。

収穫したもち米は、来年一月に餅つき大会を開いて地域住民や保護者らに振る舞うほか、来春の卒業式で配る紅白餅に使うという。

六年の小川姫依さん（こは）は「食べられるのが楽しみ」と話した。

（横田浩熙）

2022. 9. 13 (火)
中日新聞 鈴鹿亀山版

のこぎり鎌で稲刈り

亀山の白川小 児童ら体験

【亀山】亀山市立白川小学校（平野明希校長）の全校児童四十八人は十二日、同市小川町の浅野正さん（みづら）所有の実習田（約九坪）で、児童らが四月に植えたもち米（あゆみもち）の稲刈り実習体験をした。

毎年田植えは児童全員で実施しているが、稲刈りは、天候やコロナの影響で五年ぶりとなった。浅野さんと白川地区まちづくり協議会の広森祐一会長（せういち）ら地域住民計七人が協力した。

農村地域で児童数の少ない同小学校は、市内十一小学校のうち、平成十七年度から唯一「小規模特認校制度」を実施。現在四十八人のうち十四人が、同小校外から通学している。

体験は、米作りを通じて働く喜びや労働の尊さ、収穫への感謝を学ぶのが目的。浅野さんからの、のこぎり鎌の使い方と、「稲を刈るときは、少し足を開いて、けがないよう安全に」と

説明を受けた後、二班に分れて横一列に並び、のこぎり鎌で稲を刈り取った。

小学三年生の広森千夏さん（ちか）は「少し腰が痛かったが、うまく刈れて楽しかった」と話していた。



のこぎり鎌で稲を刈り取る児童ら＝亀山市小川町の実習田で

2022. 9. 13 (火)
伊勢新聞 北勢版